

2021年度 第7回奈良ESD連続セミナー 概要報告

奈良教育大学 大西浩明・中澤静男

- ◇開催日時 10月14日(木) 19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修
- ◇参加者数 31名
- ◇内容 現職教員・大学生の単元構想案の相互検討

【セッション1】大西浩明

1. 安曇野の水 (小学4年生社会科：根本さん)

(1) 単元展開の概要

- ・今でこそ米づくりがさかんな長野県安曇野市
- ・もとは、水が少なく農業に向いていない土地だった
- ・拾ヶ堰(じっかぜき)という用水路を作った等々力孫一郎を取り上げたい。
- ・工事に反対する人に襲われても、莫大な借金を抱えそうになってもやり遂げた信念を感じさせたい。
- ・よりよい未来を創りたいと生きた孫一郎の生きざまに共感させたい。

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・授業者が、「どうしてもこの人物を取り上げたい」という熱い思いを持っていることは重要。
- ・その人物の、どこに焦点をあてて学んでいくのかをもう少し明確にするとよい。
- ・「調べる」段階で、何を、どのように調べさせるのか、何が分かればよいかを構想図に表現してほしい。
- ・「ふかめる」ための問いは、「なぜ拾ヶ堰をつくろうと思ったのだろうか？」では、深まらないと思う。「なぜそこまでして拾ヶ堰をつくったのだろうか？」のようにすることで、孫一郎の思いや人々の願いに迫ることができるのではないか。
- ・すべて人力で、多くの人に関わった大工事であったことを実感させたい。
- ・農家の人たちに、拾ヶ堰に対する思いをインタビューさせてもよい。
- ・最後に、拾ヶ堰のすごさを伝えるだけではもったいない。
→ 用水路そのものに目を向けて、生き物調査をすると広がりがあるかも。

2. 作文教材 (小学6年生国語科：岩城君)

★文章を論理的に構想して作文し、相手に伝わりやすくすることが苦手な子どもが多い。

(1) 単元展開の概要

ネタは 例えばカレー

1次 先生が実際にカレーを持ってきて美味しそうに食べ、児童に食べたいと思わせる。

(ワクワクさせること・児童に興味を持たせ、動機づけを行う)

最終的には自分の好きな人に美味しいカレーを作ってあげる(学習の見通しを立てる)

2次 先生の食べていた美味しいカレーの作り方を学ぶ(論じ方、書き方を同じネタで学ぶ)

3次 2次で培った力を使って自分のお気に入りのカレーを作る(自分で学んだことを使ってみる)

未来次 自分の好きな人にカレーを作ってあげるにはどのようにすればよいか考える

・家庭科ではなく、国語科なので、カレー作りのところを作文にする。ネタは児童の実態に即した形にしていくために「カレー」ではなく、「今年の運動会がなくなったこと」などに注目させていけたら

いいなと考えている。

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・カレーや運動会を全員が肯定的に捉えるだろうか。カレーが嫌いな子、運動会がなくなってホッとしている子にとっては、スタート時点でワクワクできないかも。
- ・作文はもともと論じるものではない。→ 意見文として書くということでもいいのでは。
- ・「豊かに書く」ためには、その様子を具体的に表現するというではないのか。
- ・お互いに書いたものを交流して、評価し合う時間も大切だと思う。
「すごく分かりやすい」「とてもよく分かる」表現方法をシェアできるようにしたい。
- ・未来次の「自分の好きな人に・・・」という相手意識を持たせることでワクワクできると思う。
ただ、それがカレーかと言われたら違うような気がして。他に何かインパクトのあるものがないか。

3. 防災について考える (小学校高学年・総合：佐藤さん)

(1) 単元展開の概要

- ・地震の怖さを知り、被災した時の行動を想定することができる。また、自分たちの防災意識を高め、それを行動に移すことができるようにする。
- ・学校での避難方法、家庭での防災対策、避難所は本当の安全か
- ・避難訓練が学校行事化していて真剣ではない → 自分事にさせたい
- ・地震発生当時の映像を見る 体験した人の話を聞く
- ・学校で地震が起きたときは？
- ・家庭で地震が起きたときは？ 家庭での防災対策についてチェックしてみる
- ・避難所はどこ？ その避難所は安全？ 学校の体育館や地域の避難所を調べてみる
不備があれば、校長先生や地域の管理者に伝える活動

(2) 本単元構想に関する意見交流

- ・防災の学習で、災害の怖さを伝えてから始まるのはどうなのか。
→ 精神的にダメージを負う子もいるのでは。
- ・それより、公園にある「かまどベンチ」や「防災トイレ」などを例に、興味関心を引き付けて学習に入る方がよいと思う。
- ・家庭での防災チェックも、したくてもできない家庭もあるはず。
- ・経験者に話を聞くのも、「避難所で〇〇したらうまくいった」という話など、よかった例を出してもらうと、安心感を与えるような前向きな防災の学びになるように思う。
- ・もちろん、どこかでは災害の事実や怖さを伝える場面も必要ではある。
それが、「後世に伝えていかなければならない」という気づきにつながる。

【セッション2】中澤 静男

1. 環境を守る私たち (小学5年生社会科・総合：奈良市立平城西小学校・樋口先生)

(1) 単元計画の概要

①教科書を用いて京都市の鴨川での取り組みを学ぶ

- ・ボランティアの活動や行政の取り組みで水質浄化できた鴨川

②校区を流れる秋篠川

- ・児童の関心は低い

・秋篠川そのものと秋篠川に関わって活動されている人々への関心を高めたい

③秋篠川には何が集まってくるだろう

④秋篠川をきれいにするために自分にできることを考えよう。

(2) 本単元構想に関する意見交流

①もともと秋篠川への関心が低い児童の関心を高めるために

・ただ、秋篠川沿いを散歩するだけでは高まらない。

②秋篠川と児童の距離を小さくする手立て

・水質調査 生物指標調査と化学調査（パックテスト）

パックテストの方が手軽だが、その時の水質しか反映しない。生物指標調査はやり方さえ身に付ければ、児童でも簡単に繰り返しできる。その時の水質だけでなく、全体的な水質の程度を反映した結果を得ることができる。

・透視度計

ペットボトルを使って簡単な透視度計を作成することができる（にごり具合の調査）

・水際の土と水を採取し、かき混ぜることで、マイクロプラスチックについて調査できる。秋篠川の源流は、大淵池なので、プラゴミの影響があるかもしれない。そこから、海ゴミの学習に発展させることができる。

・秋篠川は、平城京建設時につくられ、運河として利用されていた。秋篠川の歴史的側面からアプローチすることで関心を高める子どももいるだろう。

③秋篠川に関わる人々との出会い

・秋篠川源流を愛し育てる会が活動しているので、一緒に活動したり、GTとして招いたりすることで、人物を通じた学びから、「自分も秋篠川のために何かやってみたい」という思いを引き出すことができるだろう。

2. 安全なくらしを守る（小学3年生社会科・総合：加藤さん）

(1) 単元計画の概要

直前の学習として、火災を防ぐ消防署の学習を終えている。

①みんなが暮らしやすい町って、どんな町だろう

事故がない町、火事がない町

②みんなが暮らしやすい町にするために働いている警察官

・警察官にどんな仕事をされているか、インタビューを行う。

・警察官の仕事にどんな人が協力しているだろうか。ボランティアに視点をあてる。

見守り隊、交通安全教室

③そもそもどのようなルールがあるだろうか

歩きスマホはだめ 自転車の条例

④みんなが安全に暮らせるまちにするために私たちができることって何だろう。

交通ルールの見直し 安全マップづくり

(2) 本単元構想に関する意見交流

・みんなが暮らしやすい町と尋ねるよりも、「どんな町なら住んでみたいかな・」と尋ねる方が、児童

が自分事として考えるようになるのではないか。

- ・社会科であるので、警察官に仕事をインタビューするだけでは、教科の目標を達成できない。まず、意図的、計画的にシステムとして捉えさせる必要がある。その上で、誇りを持って取り組んでいる警察官へのインタビューによって、システム以上の働きをされているところや、願いや苦勞、努力などを聞き出すことが大切。
- ・子どもにとって、警察は距離がある。落とし物を拾って交番に届けた経験などを子どもの中から引き出して、身近な存在であることを確認させる必要がある。
- ・警察官は組織の一員という自覚の元で町の安全に取り組んでいるが、見守り隊のようなボランティアの方々はどのような思いで活動されているのだろうか。ここを知ることが、学習後の児童の取り組みたい行動化に影響を与える。
- ・警察官と見守り隊の方を一緒に教室にお招きし、対談してもらってはどうか。
- ・3年生にできることは「あいさつ」だと思う。あいさつが防犯の役割を担っている。

3. プラスチックの使用について考える（中1総合的な学習の時間：稲富さん）

（1）単元展開の概要

①日常生活におけるプラスチック利用の現状把握（ペットボトル、ビニール袋など）

なぜ、たくさん使うんだろう？

→ 軽い、丈夫、便利、などプラスチックのよさの確認

②しかし、近年、ビニール袋が有料化された

なぜ、非常に便利なビニール袋が有料になったんだろう？ 使用量をへらすため。

③プラスチックの大量使用によって起こっている問題の把握

年間約800万トンのプラスチックごみが海に流れている。たくさん海の生物の死。プラスチックゴミがいっぱい。処理に二酸化炭素も発生する。

④プラスチックゴミを減らすために私たちにできることを考えよう。

エコバックを使う マイボトル・マイ箸を使う。洗って分別してリサイクルに

（2）本単元構想に関する意見交流

- ・海洋プラスチックの問題については、動画も多いので利用するといい。
- ・自分たちがどれだけプラスチック包装などを使っているか「実感」させるため、一週間分のプラスチックゴミを集めて、量で示すのが効果的。
- ・どんなプラスチックゴミが多いのかがわかると、購入時に考えるようになるかもしれない。
- ・教室のプラゴミをゼロにしようと、児童と一緒に取り組んだことがあるが、ゼロにするのは無理だった。理想的だが、具体的行動を考えるとできなくなる。
- ・プラゴミ問題は日本だけの問題ではないので、海外のプラゴミ問題やプラゴミ減少対策などと比較してもいいのでは。
- ・プラスチック＝悪者という考え方にならないようにすべきだろう。どうしてもプラスチックが必要とされる利用場面があるだろう。
- ・どんなプラスチックなら使用してもいいのかを考えさせることが、日常生活での行動の変容につながる（考え方を構築するので）。考える場面を設定することが大切。

使用を減らすために、これは使わない。こういう使い方しているものは購入しない。

- 1回しか使わない利用の仕方と繰り返し利用するもので区別するのもいい。長く使うものという区別の仕方もいいのでは。
- 「マイ箸」は林業家の副収入源であり、森林の更新にとっても間伐材の利用は重要だ。